

発行日：2013年11月16日

アフリカ南部の旅（その2）

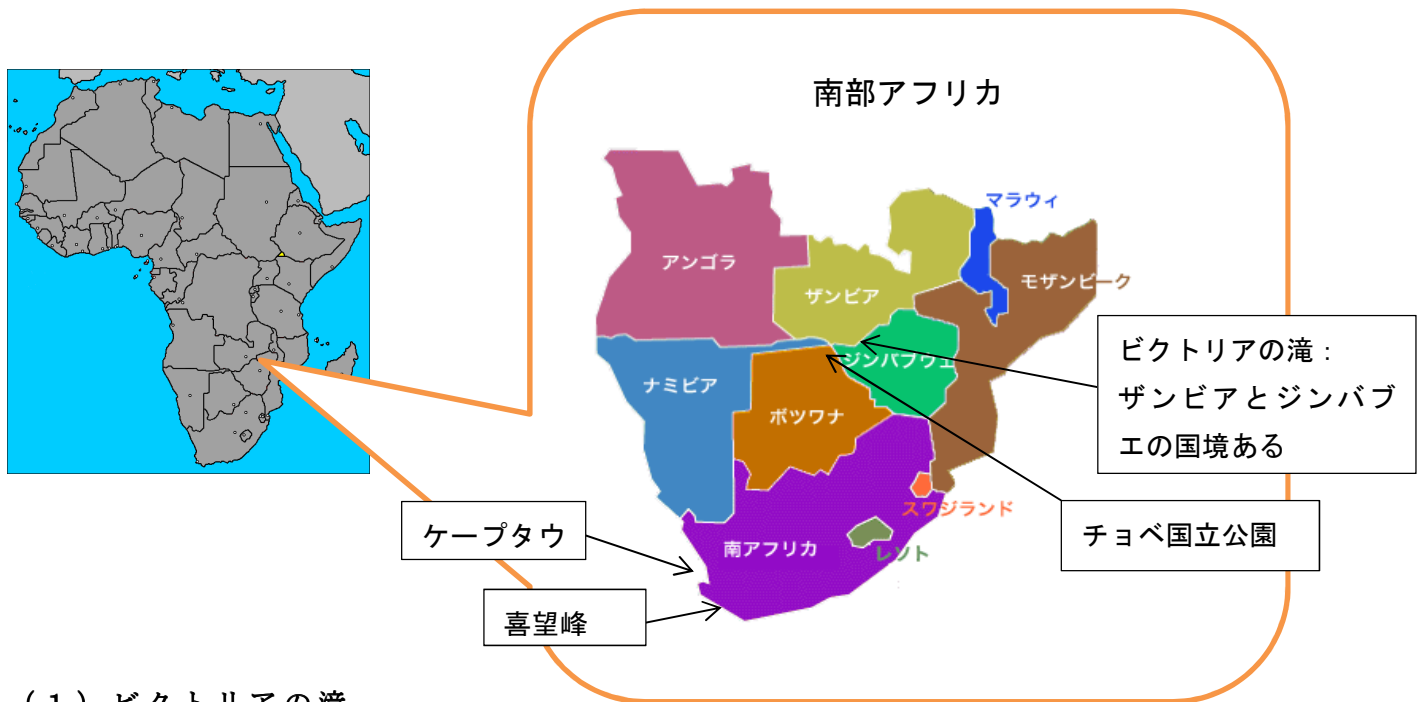
～ビクトリアの滝とサファリー～

千葉県八千代市 松尾 昌泰

前号のアフリカ南部の旅（その1）では、南アフリカ共和国のケープタウンと喜望峰であったが、今回はビクトリアの滝とサファリーである。

ビクトリアの滝はジンバブエとザンビアの国境にあり、見学は両方の国からとヘリコプターにより上空からであった。

そして、サファリーはその隣のボツワナ国のチョベ国立公園でのゲームドライブと、ザンベジ川でのサンセットクルーズであった。（この旅では、ケープタウンや喜望峰のあった南アフリカを含め、4国に行ったことになる。）



（1）ビクトリアの滝

アフリカ南部を流れる大河ザンベジ川の中流の、ジンバブエとザンビアの国境にビクトリアの滝がある。

ビクトリアの滝は、南米のイグアスの滝、北米のナイアガラの滝と並び、世界三大瀑布の1つである。

水量が多い雨季には、巨大な水煙が舞い上がって、滝自身を覆い隠してしまうので、雨季（11月～3月）には滝の観光に向いてない。7月の乾季でさえ遠くから立ち昇る水煙がよく見えたし、滝の観光中でも場所によっては、雨より大粒の水しぶきを浴び、レインコートを着てなければ「びしょ濡れ」になる。



この一帯は固い台地の上に亀裂が走り、そこに柔らかい堆積岩が埋まっている。川はその堆積岩を浸食するので、長い年月の間には、滝の位置が徐々に下流から上流へと移動している。今でも浸食が進んでいるそうである。



世界の3大滝	ビクトリアの滝	ナイアガラの滝	イグアスの滝
最大落差	108m	51m	64～82m(2段に分かれ、単独では64m、合計で82m)
幅	1,708m	1,203m	2,700m
年間平均(m ³ /s)	1,088 m ³ /秒	2,407 m ³ /秒	1,746 m ³ /秒

(2) ビクトリアの滝を上空から (ヘリコプター)

ヘリコプターでビクトリアの滝を上空から一望した。

7年前に、ニュージーランドで6人乗りの小型飛行機で遊覧した時の恐怖がよみがえった。ニュージーランド最高の山であるマウントクック (3,754m) を上空から見るのだから、当然かもしれないが、高度も高く、気流の流れもありで、機体が揺れ、ガタガタと音もした。

心配でもあったが、今回は全くの平地であり、風も無く機体は安定していた。

上空からの遊覧は、地上からの見学とは違って、幅 1,700m、落差 100m の滝全景を見渡す事ができ、上空からの見学は圧巻で快適であった。



(3) ザンベジ川のサンセットクルーズ

ビクトリアの滝の見学を終えて一旦宿に戻り、日の傾くのを待ってザンベジ川のサ

ンセット・クルーズに向かった。船は我々のツアー貸し切りで、イスとテーブルが置かれており、ビールやワインなど飲み物はすべて無料で、乾きものと餃子のようなオツマミが出された。ツアーの団体もこの頃になるとお互いに打ち解けて、ワイワイガヤガヤと、まるでビアガーデンのようだった。

ザンベジ川の流れはゆったりで、下流数 km 先に幅 1700m、落差 108m もの巨大な滝があることなど想像もできないほどだった。

船頭は何かを素早く見つけ船を岸边に近づけ「クロコダイル」と叫んだ。草むらに大きな口を開けたワニがいた。



船は野生動物の影を求めて夕暮のザンベジ川を右へ左へと回遊する。クルーズの最後は、川面に反射し、雲を赤く染めた夕日であった。



(4) チョベ国立公園でのゲームドライブ

翌朝の宿からの眺めは、何一つ遮るこのが無く気持ち良い。雲は立ち込めているが天気は良く、宿からのサンライズは素敵であった。



この日はゲームドライブ、即ち、サファリーカーの乗り野生動物の見学である。

宿のあるジンバブエから、国境を越えてボツワナに入国し、その場でサファリーカーに乗り替えチョベ国立公園に向かった。この車はトヨタ製の四輪駆動車で、屋根だけしかなく猛スピードで走るので、寒く震えた。



屋根だけしかない四輪駆動車で国威率公園の中を走り回り、インパラ、カバ、ワニ、キリン、サイ、クドウ、バッファローなどを、ガイドの運転手が案内してくれる。



インパラやキリンなどにはよく出会うが、ライオンにはなかなか出会う事ができなかった。ガイドたちは無線で連絡し合い、やっとライオンを見つけた。

木陰に座っているライオンに近づいて行く。するとライオンは立ち上がり歩き出した。車はまだ近づいて行く。思ったより大きい雌ライオンが10m位のところをのっそり歩くと歩く。サファリーカーは屋根だけしかないの、ライオンが向かってきたら一溜まりもない。サファリーカーでは、ライオンに近い側に乗っていたから、恐怖も感じた。しかし、ライオンは我々を無視して歩き遠のいて行ったしまった。ホッとするとやら感激するやらであった。



ライオンもそうであるが、野生の動物は、動物園の動物と違って、どれも生き生きして、つやつやしていて美しかった。



終わりに

今回の旅行の目玉は「大自然」であった。元大統領のマンディラに代表されるアパレルヘイトの歴史等もあったが、喜望峰・ケープタウン、ビクトリアの滝、ペンギン島、アザラシの生息地、ゲームドライブやサンセットクルーズなどであった。

最近では、歴史的な建造物や遺跡、大都市のビル群などよりも、大自然を見て、自然の中に浸かる旅の方が良いと思うようになった。しかし、いつまで長い飛行時間に耐えられるだろうか、あと数年は海外旅行に行きたいと思っている。

以上